

<オープンチャーチ礼拝> 聖霊降臨節第5主日

6月28日 10:30~11:30

1 黙 禱

2 賛 美 21-493

3 聖 書 マタイによる福音書

25章40節(新P51)

4 説教と祈り 「最も小さい者のために」

有馬尊義

5 賛 美 21-494

6 各々の祈り

7 主の祈り

(家庭礼拝の例です)

※讃美歌は著作権の関係で録画配信しません。

<今週の聖句> マタイによる福音書 25章40節

はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。

【次週(7月5日)の礼拝】

聖日礼拝

聖書：マタイによる福音書 19章16~22節

説教：「命を得るために」有馬尊義牧師

讃美歌：21-509、21-197

西荻教会ホームページ URL

<https://www.nishiogi-g-y.com/nc/>



神様の裁きについての一節を読みました。イエス様が再び来られるとき、羊と山羊を分けるように人々を分けます。そして片方の人々に今日読んだ言葉を語られ、永遠の命にあずからせてくださいます。そして続いて、もう一方に分けられた人々には「はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったのである。」そう言われて、永遠の罰に定められます。

すぐに考えるのは、自分は羊だろうか山羊だろうか、ということではないでしょうか。その時に私たちは「良い行いをすれば救われる」という話だと理解しているのではないのでしょうか。勧善懲悪を教える説法のように「救われるために良いことをしましょう。地獄に行かないように悪事をしてはいけません」という話に聞いてしまいます。しかしそれは因果応報の話であって、キリストの福音ではありません。

私たちが思う「良い行い」としてイエス様が褒められる行いというのは、実はたいした行いではありません。何と言っても本人が覚えていない程度の事なのです。むしろ驚きなのは、私たちが意識しない程の小さな愛の業、覚えていない程の当たり前のような愛の業も、イエス様は覚えておられるということです。それもご自分に対してしてくれたこととして、忘れてしまう程の小さな愛を、実に大きな喜びとして受けられ、感謝してくださっているということです。

このイエス様の喜びと感謝を真剣に私たちは求めているのでしょうか。私たちは、自分はどれだけのことができるだろうか。自分は大層なことではない。逆に、少しでも特別なことをしたかのように自分を自慢します。けれども、ここでイエス様の感謝を受け取った人々は、自分がやったことを覚えていません。自分を知らないのです。自分を見ていないと言ってもいいかもしれません。彼らの心はイエス様に向けられています。イエス様のことを愛している人々です。しかし、イエス様のために何もしていないと思っている人々です。

イエス様がご自分のこととして受け入れてくださっている「最も小さい者」とは誰のことでしょうか。ここで「最も小さい者」と呼ばれているのは明らかにクリスチャンのことです。それも、旅をしながらキリストの福音を伝えた使徒や、弟子たちのことです。その意味では、ここでイエス様が言われる最も小さい者のために何かをした人々もまた、最も小さい者の一人なのです。

最も小さい者が最も小さい者のために何をしようとして世は覚えていないし、気づきもしない。しかし、イエス様は最も小さい者のした最も小さい愛の業を決して無視されず、決して忘れられません。喜び、感謝し、報いてくださいます。

実はこの話は、イエス様が十字架にかけられる直前の、最後の弟子たちへの説教として記されています。イエス様が十字架にかかれるのは、私たちに代わって罪の裁きを引き受けてくださるためです。この罪の赦しの十字架を信じる信仰と切り離して理解することはできません。

最も小さい者の愛の業はどこから生まれるのでしょうか。それは、裁きを受けたくないという恐れからは生まれません。裁きを恐れるところに生まれるのは、あれもしました、これもしましたという言い訳でしょうか。そうではありません。裁かれないために「何もしない」のです。何もしなければ、良いも悪いも定めることができないからです。しかし、それこそイエス様が嫌われることです。そのことは、この説教の前に記されているタラントンのたとえからも明らかです。

愛は恐れからではなく、信仰から生まれます。そして、信仰とはこの喜びと感謝をあらわしてくださる方が、私たちを救うために十字架についてくださり、私たちを救ってくださっている、という事実を根ざしています。そして、イエス様への愛と信仰から、隣人への愛が生まれます。私たち自身が気づかない程小さな愛であっても、確かにそれは生まれます。私たちの小さな愛を、小さな奉仕を、全てイエス様は覚えていてくださり、最も大きな天の恵みを与えてくださいます。